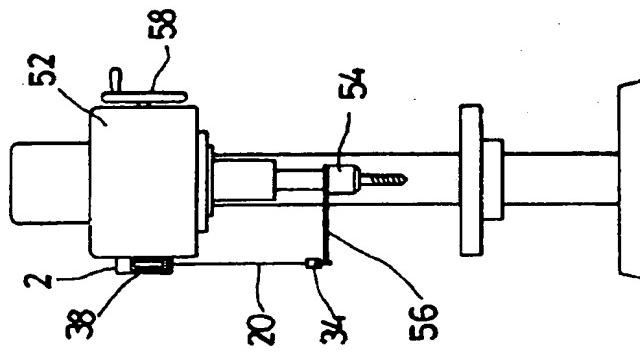


第4図



取入  
印紙

昭和59年8月ノ7日  
直

特許庁長官 聞

1. 事件の表示

昭和59年实用新案登録願第68789号

2. 考案の名称

卷尺型デジタル測定表示器

3. 準正をする者

事件との関係 實用新案登録出願人

セタガヤクイケヅリ

住所 (固所) 東京都世田谷区池尻3-1-3

ムトウコウギョウ

氏名 (名称) 武藤工業株式会社

4. 代理人

住所 (固所) 〒150 東京都渋谷区神宮前6-19-1

高野第1ビル9階

氏名 (名称) (6775) 井理士 西島 緑

5. 準正の対象

(1) 實用新案登録請求の範囲の欄 (2) 考案の詳細な説明の欄  
6. 準正の内容  
(1) 實用新案登録請求の範囲を別紙のとおり訂正する。

実開60-179903 1. 方式査  
8月18日  
26

実開60-179903

26

印紙 方式査  
23

(1) 明細書中、12ページ6行目

「互いに直角な」

とあるは、削除する。

2. 対用新案登録請求の範囲

ケーシング2内に巻回された長尺状部材20の先端をケーシング2の外部に配置し、該長尺状部材20の直線方向の移動量をケーシング2に内蔵した回転体4の回転量に変換し、この回転体4の回転量を、表示部38にデジタルに表示するようとした捲尺型ディジタル測定表示器において、前記ケーシング2の少なくとも二つの側壁のそれそれに前記表示部38のカバー38aを嵌合するための取付凹部36、46を穿設し、該取付凹部36、46のそれぞれに配線用の穴42、47を透設し、前記取付凹部の36、46のうちの一つの取付部36に前記表示部38のカバー38aを取付け、前記取付凹部36、46のうちの他の取付部46に前記穴42、46を塞ぐためのカバー48を取付けたことを特徴とする捲尺型ディジタル測定表示器。



特許用新案登録願(8)

(4,000円) 昭和55年9月27日

特許長官

1. 考案の名称

電子式スケール

2. 考案の著者  
住所 545 大阪市阿倍野区玉池町22番22号  
シャープ株式会社 内  
氏名 サワ 沢 野 ノブ 英 (他2名)

3. 實用新案登録出願人

住所 545 大阪市阿倍野区玉池町22番22号  
名前 (504) シャープ株式会社 内  
代表者 佐 伯 信 勤

4. 代理人  
住所 545 大阪市阿倍野区玉池町22番22号  
氏名 井野士 (6236) 電子式スケールにあつ  
志野光 志野(東京) 260-161 電子式スケール

5. 繰り返題の目録

- (1) 明細書
- (2) 図面
- (3) 委任状
- (4) 請求副本

13732  
55 138032

64604

明細書

1. 考案の名称

電子式スケール

2. 實用新案登録請求の範囲

1. 卷尺手段の引き出し量を電子的に検知して測長データを得る電子式スケールにおいて、到来するある測長データを記憶させ、且つこの時点より一定時間経過後に到来する測長データと前記記憶させた測長データとを比較する手段と、比較の結果前記両データが一致したとき、該測長データを音声にて報知する手段とを備えたことを特徴とする電子式スケール。

3. 考案の詳細な説明

本考案は巻尺手段の引き出し量を電子的に検知得られた測長データを音声にて報知し得る電子式スケールに関する。

電子式スケールとしてはメジャー、身長計等種々あるが、從来のこの種の電子式スケールにあつては巻尺手段の引き出し量を電子的に検知し、得られた測長データをデジタル的に表示するよう

(1)

記入欄

に構成されている。

従つて、この種のものは目盛をいちいち読み取る必要がないので読み取りミスがないといいう利点があるが、反面薄暗い場所で使用する人や目の不自由な人にとつては表示内容の認識の点で今一つ問題があつた。

本考案は上記した従来の欠点に鑑み、計測値（測長データ）を聴覚にて認識できるようになした電子式スケールを提供するものである。

以下圖にもとづいて本考案の一実施例を詳細に説明する。

第1図はメジャーを例にとった本考案に係る電子式スケールの外観図を示し、図中Aは電子式スケール本体、Bは巻尺本体、Cは測長データの音声報知用スピーカを示す。電子式スケール本体Aの内部には測長の検知用回路及び測長を音声合成にて音声報知する回路等が内蔵されている。

第2図はプロック構成図を示し、図中Bの巻尺本体は該本体を側面から見た図であり、これには単位長さ毎にシリットEが穿設されている。

(2)

接点Gと接点Hはスケール本体の電源スイッチを構成しており、これらは本体Aの巻尺の出し入れ口近傍にあるつて、巻尺が完全に収納されている状態では巻尺の折曲げ端Iが接点Gの突起Jを中心左方向に押圧し、該接点Gが支点Fを中心として接点Hから離間し電源がOFFとなる様に、又巻尺をスケール本体Aから引き出したとき接点Gと接点Hが接触して電源がONとなる様に配設されている。

回転体Kの外周面には前記巻尺本体Bに設けたシリットEに係合する複数個の係合爪をシリットのピッチと同一ピッチで立設されていて、この回転体Kは巻尺本体Bの出し入れと共に回転するよう構成されている。

接点Qは通常ベネPにより接点Rと離間状態にあるが、巻尺本体Bの引き出し時にともなう回転体Kの時計方向の回転時に次々に到来する爪の押下作用で接点Rと接触、非接触を繰り返し、巻尺Bの引き出された量（測長）に関連したパルス数を発生するよう構成されていて、このパルス数はカ

(3)

ウンターカウンタでプラスカウントされる。一方、接点 M とバネ L と接点 N は前記接点 Q, R とバネ P との関係と同一に構成されているが、接点 M と N は回転体 K の逆回転（反時計方向の回転）で接触・非接触を繰返す。即ち、ここでは巻尺本体 B を収納した量に関連するパルス数が発生し、このパルス数はカウンターカウンタ COUNTER にてカウントされる。カウンターカウンタ COUNTER にてカウントされた側長に関する数値情報は順次インターフェース「ノド」を介して中央演算処理装置 CPU にて転送される。

中央演算処理装置 CPU では転送されてきた数値データを一旦アキュームレータ ACC ( 図示せず ) に記憶させ、この数値データと一定時間経過後に転送される数値データとを比較し、両者が同一のときアキュームレータ ACC の数値データをバイシンチャイザー ( 音成合成器 ) VS にてつて音声信号に変換する。そしてその信号をアンプAMP で増幅しスピーカ SP にて送り音声報知する。

(4)

第3 図はフローチャートを示し、これによつて今少し動作を説明すると、まずスケール本体の電源が ON 或いは OFF かを判定し ( ジャッジ J1 ) 、電源 ON のときカウンターカウンタの内容をアキュームレータ ACC に入れる ( ステップ A1 ) 。その後、ある一定時間経過後 ( ステップ A2 ) 、この時点におけるカウンターカウンタの内容と前記アキュームレータ ACC の内容を比較し ( ジャッジ J2 ) 、両者の内容が異なる場合にはステップ A1 に戻る。一方、前記両者の内容が一致するとアキュームレータ ACC の内容を音声報知すべくボイスシンセサイザ V S にて転送する。

このように、巻尺本体 B の引き出された量に関連する数値データを一定時間経過後のそれに關する数値データと比較し、両者が同一のとき前者の数値データを測長データとしてボイスシンセサイザ V S にて転送しスピーカ SP にて音声報知する。

以上の如く、本考案に係る電子式スケールによれば、計測値を音声にて報知することができるので、使用場所が薄暗い所であつても、或いは使用

(5)